



スポーツ中のケガでも“安心”の補償

子どもとサッカーの練習中、シュートを打とうと見せかけて……

静岡県富士市で中央製機(株)を営む渡邊哲史さんは、子どもとサッカーをしているときに、右足を強打してしまいました。

日本一の山「富士山」。その雄大な姿は多くの人々を魅了し、日本人の心の風景として愛されています。その富士山の南麓、静岡県富士市でトラックの補助装置製造業を営む中央製機(株)社長・渡邊哲史さん(40歳)がケガに見舞われたのは、4月17日の昼過ぎでした。

それは小学校3年生の息子さんと近所の小学校の校庭でサッカーをしていたときのこと。はじめは

簡単なバスを繰り返していました。息子さん(4歳)がゴールキーパーをやりたいと言いました。

「じゃあ、お父さんが打つぞ」と何度か軽いシュートを打ち、息子さんも難なくキャッチ。

「よし、それなら……」とシュートを打つと見せかけて、打たずに驚かせようと考えた渡邊さんは、力いっぱい右足を振り上げ、ボールの手前でわざとつま先で地面を蹴りました。その時、かすかな痛みが親指に走ったのです。

「あれ、ちょっと痛いな」と思いましたが、その後、30分ほど練習を続けて帰宅。その日の晩も普段と変わらずに眠りにつきました。

しかし、翌朝起きてみると右足の親指付け根の辺り全体が腫れ、内出血をおこしていたのです。

「なんだか変だな」と思い、病院へ。レントゲンを撮ると、右足親指の関節が折れていました。すぐに簡単なギプスで患部を固定する治療を施し、会社に戻りました。

「まさか骨折しているなんて……」その後1回、仕事の合間を縫って通院。しばらくの間、靴を履けずにいきましたが、仕事は続け、ケガは約1カ月半で完治しました。

「ケガも軽かったので、生活や仕事で不便を感じたことはありませんでした。ただお客さまにどうしたのとよく聞かれましたね(笑)」

あんしん財団へは、総務の担当者(連絡、手続きを取りました)。「通院1日目から補償されるので、とても助かりましたよ」

今ではすっかりケガも回復した渡邊さんが2代目として腕を振るう中央製機(株)は、JR新富士駅から車で約5分の工業団地内にあります。普通トラックのスペアタイヤを車体に保持する装置「スペアタイヤキャリア」やトラックのアオリ戸の開閉補助機「アオリバラ

ンサー」を主力製品として製造。とくにスペアタイヤキャリアは、普通トラックへの装着シエア日本一を誇ります。

会員資格・被共済者(加入者)資格の状況確認のお願い

あんしん財団の災害補償共済事業につきましては、次のいずれかに該当し、かつ現に会員事業所の事業に従事されている方を被共済者の有資格者とさせていただきます(規約第8条)。

- ①法人が会員の場合は、当該法人の役員
- ②個人事業主が会員の場合は、当該事業主及びその家族(民法に定める親族をいう)
- ③会員の常時雇用する従業員
- ④その他前3号に準ずる者であんしん財団が被共済者と認めたもの

したがって、事業所が廃業されたり、被共済者としてお届けた方が転職・退職された場合、あるいは寝たきり・認知症等により経営または就労実態がないと認められる場合には、被共済者資格を喪失することになりますので、速やかに最寄りのあんしん財団各支局・支所に脱退または変更(減員)をお届けください(規約第7条第2項)。

被共済者資格を喪失された方が万一ケガをされた場合には、災害補償共済の対象とはなりません(規約第19条第2項第1号)。また、脱退または変更のお届けをいただく間にお支払いいただいた会費も返還できませんので(寄附行為第33条)、速やかなお届ををお願いいたします。

2,000円(1日の通院補償費)
×7日(実日数) = 14,000円

※上記の通院補償費を中央製機(株)様にお支払いさせていただきました。